

令和3年度  
事業報告書

社会福祉法人天光会  
特別養護老人ホーム恵光園  
ユニット型特別養護老人ホーム恵光園  
短期入所生活介護事業所恵光園  
ユニット型短期入所生活介護事業所恵光園  
デイサービスセンター恵光園  
居宅介護支援事業所恵光園  
ケアハウス恵光園

## 特別養護老人ホーム恵光園

### 【活動方針】

- お客様一人一人のニーズに沿い、お客様が尊厳を保持し有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、個別のサービス計画を作成し、計画に沿ったサービスを提供する。また、各部署と協働してお客様及びご家族が望まれる医療やケアに努める。
- 全職員対象の毎月行う園内研修や外部研修に積極的に参加する。また、他施設で行う研修にも参加する。職員の資格取得を推進し、働きながら取得できる環境に努める。専門性の向上として、毎月行う園内研修を行い、全職員が参加する。また、研修の講師を各委員会の担当職員が行うことにより講師自身のスキルアップの機会にする。補助金を活用した介護ロボットや記録類にはパソコンの推進を図り職員の負担軽減を図る。
- 町内会や民生委員、ケアマネ、近隣施設との連携を図る。社会資源となる様々なボランティアを受け入れ、地域に開かれた施設を目指す。SNSや広報誌などを通じて外部へ発信する。
- 長期入居者の稼働率98%（入院者含む）とする。また、ショートとの合算で稼働率96.5%を目指す。具体的には、退所後1週間以内に新規入居者を入れる。また空所になる前に、ロングショートからの移動か、外部からの入居かを事前に話し合う。入居申込書が届いた場合は、事前面談の対応を早めに行う。

### 【部署目標】

- お客様中心のサービスの提供
- 各専門職と連携した職場作り
- 地域社会との協同と社会貢献
- 経営の安定をはかる

### 【執行報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
令和3年度	97%	100%	100%	98.1%	98%	100%
令和2年度	97%	98%	98%	97%	94%	96%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和3年度	98.7%	100%	99.8%	99.3%	97.7%	92.1%
令和2年度	96%	98%	98%	95%	95%	94%
	目標			実績		
稼働率	98%			98.39%		
平均介護度				4.2		
新規入居者数				14名		
退所者数				15名		
年間入院件数				24名		
看取り対応				8名		

### ご利用者中心のサービスの提供

→お客様一人一人の身体状況に合わせたサービスの提供・ケアをしており、また、お客様の要望などに対しては、できるだけ応えるために、各ユニットで工夫していた。

病気などでADLに変化があった場合は、月1回のユニットミーティングなどで、ユニットリーダーを中心として話し合いの場を設け、対応できていた。

### 各専門職と連携した職場作り

→専門性の向上・スキルアップについては、各委員会メンバーが園内研修を担当し、研修の項目のレジュメや動画の作成などを行っていたため、知識向上につながっていた。

職員の負担軽減の一環として、令和2年度より介護記録をパソコン入力に切り替えた。どこでも入力可能となり、徐々にそのシステムに職員が慣れていき、手書きの時よりも時間の短縮につながった。

### 地域社会との協同と社会貢献

→新型コロナウイルス感染症の影響により、近隣の施設や地域の方々と連携する機会がほぼなかった。ボランティアの受け入れも、全て中止となった。

施設の情報発信は、SNSの活用や3か月に1回の広報誌の発行で対応できていた。

### 経営の安定を図る

→年間の平均稼働率98%を目標に入居支援にあたり、なんとか98.39%と達成できた。退所後、1週間以内での新規の入居に関しては、比較的対応できていた。しかし、ロングショートから長期入居はスムーズであったが、外部から直接の長期入居でつまづいてしまった部分や、今年度はコロナ感染症発生もあり、入居支援がうまく進まないことがあった。

### 【総評】

稼働率に関しては、目標はぎりぎり達成できたが、契約ベースの稼働率であり、実際の稼働率はもっと低い。そのことを念頭に置きつつ、新規の面談や営業などをもっと積極的に行っていき、待機者を増やし、稼働率アップにつなげていきたい。特に営業に関しては、今年度はほぼ行けていない。営業に行く時間を確実に作り、対応していきたい。

新型コロナウイルスの影響で、お客様に多くの制限が発生している。季節の行事なども全て中止となってしまった。そのため、お客様には多大なストレスがかかり、認知症の悪化などの悪循環が生まれている。どこの施設でも同じような状況だと思うが、制限がある中で、何ができるのかをユニット職員を筆頭に、各部署連携を取りながら考えていきたい。

本館では、疥癬や、2月から3月にかけての新型コロナウイルス感染症の発生で各部署大変な経験をした。今後同じようなことが起きないように、職員の協力・理解を得つつ、感染には気を付け、日頃から濃厚接触者の定義に触れないなどの感染対策の意識づけをしていく。

## ユニット型特別養護老人ホーム恵光園

### 【活動方針】

- 1.お客様一人一人のニーズに沿い、お客様が尊厳を保持し有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、個別のサービス計画を作成し、計画に沿ったサービスを提供する。また、各部署と協働してお客様及びご家族が望まれる医療やケアに努める。
- 2.全職員対象の毎月行う園内研修や外部研修に積極的に参加する。また、他施設で行う研修にも参加する。職員の資格取得を推進し、働きながら取得できる環境に努める。専門性の向上として、毎月行う園内研修を行い、全職員が参加する。また、研修の講師を各委員会の担当職員が行うことにより講師自身のスキルアップの機会にする。補助金を活用した介護ロボットや記録類にはパソコンの推進を図り、職員の負担軽減を図る。
- 3.町内会や民生委員、ケアマネ、近隣施設との連携を図る。また、社会資源となる様々なボランティアを受け入れ、地域に開かれた施設を目指す。SNS や広報誌などを通じて、施設の情報を外部へ発信する。
- 4.長期入居者の稼働率 98% (入院者含む)とする。また、ショートとの合算で稼働率 96.5%を目指す。具体的には、退所後 1 週間以内に新規入居者を入れる。また空所になる前に、ロングショートからの移動か、外部からの入居かを事前に話し合う。入居申込書が届いた場合は、事前面談の対応を早めに行う。

### 【部署目標】

- 1.お客様中心のサービスの提供
- 2.各専門職と連携した職場作り
- 3.地域社会との協同と社会貢献
- 4.経営の安定をはかる

### 【執行報告】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
令和 3 年度	98.1%	100%	100%	99.2%	96.4%	90.2%
令和 2 年度	95%	94%	97%	95%	98%	100%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
令和 3 年度	94%	99.4%	98.7%	99.5%	97.5%	98.4%
令和 2 年度	100%	100%	94%	94%	97%	95%
	目標			実績		
稼働率	98%			97.6%		
平均介護度				3.76		
新規入居者数				15 名		
退所者数				16 名		
年間入院件数				16 名		
看取り対応				10 名		

### ご利用者中心のサービスの提供

→お客様一人一人の身体状況に合わせたサービスの提供・ケアをしており、また、お客様の要望などに対しては、できるだけ応えるために、各ユニットで工夫していた。

病気などでADLに変化があった場合は、ユニットリーダーを中心として話し合いの場を設け、対応できていた。

### 各専門職と連携した職場作り

→専門性の向上・スキルアップについては、各委員会メンバーが園内研修を担当し、研修の項目のレジュメや動画の作成などを行っていたため、知識向上につながっていた。

職員の負担軽減の一環として、令和2年度より介護記録をパソコン入力に切り替えた。どこでも入力可能となり、徐々にそのシステムに職員が慣れていき、手書きの時よりも時間の短縮につながった。

### 地域社会との協同と社会貢献

→新型コロナウイルス感染症の影響により、近隣の施設や地域の方々と連携する機会がほぼなかった。ボランティアの受け入れも、全て中止となった。

施設の情報発信は、SNSの活用や3か月に1回の広報誌の発行で対応できていた。

### 経営の安定を図る

→年間の平均稼働率98%を目標に入居支援にあたったが、97.6%と及ばなかった。退所後、1週間以内での新規の入居も、スムーズにすまないことが多かった。

退所者が令和2年度に比べ3倍に増え、かつ待機者も少ない状況が続いていることも影響した。

### 【総評】

稼働率は契約ベースの稼働率であり、実際の稼働率ももっと低い。実際の稼働率が80%台に落ちた月もある。そのことを念頭に置きつつ、新規の面談や営業などをもっと積極的に行っていき、待機者を増やし、稼働率アップにつなげていきたい。特に営業に関しては、今年度はほぼ行けていない。営業に行く時間を確実に作り、対応していきたい。

新型コロナウイルスの影響で、お客様に多くの制限が発生している。季節の行事なども全て中止となってしまった。そのため、お客様には多大なストレスがかかり、認知症の悪化などの悪循環が生まれている。どこの施設でも同じような状況だと思うが、制限がある中で、何ができるのかをユニット職員を筆頭に、各部署連携を取りながら考えていきたい。

ユニットでは新型コロナウイルスに感染したお客様・職員は一人もでなかった。今後も職員の協力・理解を得つつ、感染には気を付け、日頃から濃厚接触者の定義に触れないなどの感染対策の意識づけをしていく。

## 短期入所生活介護事業所 恵光園

### 【活動方針】

1. ・職員は常に身だしなみに気を付け、適切な言葉遣いで挨拶等接遇マナーに努める。  
・お客様個人としての尊厳に配慮し、適切な整容を行い、環境を整え快適な生活の場を提供出来るように努める。  
・ご家族へ近況伝達及び入退所時の状態確認や報告を随時適切に行う。  
・研修等を通して介護技術の向上を図りより良いケアが行えるようにする。
2. ・自宅及び利用中の生活状況等の情報は、迅速かつ正確に伝達。カンファレンスや必要時委員会等で検討・共有化し事故防止に努める。  
・体調不良等の緊急時の対応を迅速に行う(日頃の状態や意向等家族へ随時確認していく)。  
・苦情の解決や相談への対応を迅速・適切に行う(普段からご家族とのかかわりを意識し、信頼して頂けるような関係性を構築していく)。
3. ・感染症対策の指針に基づき、手洗い・うがい励行、消毒の徹底、細菌・ウイルスを持ちこまない等、水際対策を強化し、発生を未然に予防すると共に迅速、かつ適切な細かい対策の取り組みを実施していく。  
・職員が日常的に感染症の予防策に基づく知識と行動の普及に努める。  
・新型コロナウイルス感染症においても、お客様・職員及び近親者の体調等の把握及びウイルスに関する情報収集や地域の状況を把握しながら予防強化に努める。
4. ・職員に対して研修、委員会、会議等で方針の徹底及び意識啓発、コンプライアンス上の周知徹底、法令遵守における問題点の抽出、チェック、評価等を行う。
5. ・居宅介護支援事業所、地域包括支援センター及び地域連携室等に連絡し情報の共有に努め、調整を行う。恵光園特養相談員との連携も強化し、情報共有していく。  
・申込み者の見学・面接を行い早めに契約が出来るように調整を行う。  
・緊急ショートや空床利用等、柔軟に対応してお客様の要望に応えていく。  
・利用中のお客様が継続して利用して頂けるサービスの提供を行っていく。
6. ・防災委員会を1ヶ月に1回・防災訓練を定期的実施し、有事の際に迅速に対応出来るよう職員全体で取り組んでいく。  
・発電機や備蓄品の保管及び職員への周知を徹底し、日頃より初動の確認を行っていく。

### 【部署目標】

- 1.お客様及び御家族の満足度向上に努める

- 2.多職種との報告、連絡、相談を徹底し、心身の状況、お客様、ご家族の要望等を確認し  
現在有する機能に応じた適切なサービスを提供する
- 3.感染症の予防に努める
- 4.介護保険法及び関係各法令の遵守。
- 5.年間稼働率 95%を目標に稼働率の向上と運営の安定を図る
- 6.防災対策の取り組み

#### 【執行報告】

- 稼働率 95.6%(延べ 6,977 人利用)
- 男女比(男性 26%:女性 74%)
- 平均介護度 3.8(男性 3.4・女性 3.9)
- 新規利用者数 男性 LS4 名/SS4 名・女性 LS8 名/SS4 名 合計 20 名
- 照会及び利用件数(地域包括支援センター・居宅事業所・地域連携室等より)  
照会 78 件 利用 12 件
- 特養空床利用日数 25 日/年間

1. ・お客様及び御家族の満足度向上に努める。  
・お客様に対しての接遇はマニュアルに沿って対応し、環境整備・美化活動は今後も  
推し進めていく。面会一部制限継続中であり、今後も細やかな報告を行っていく。
2. ・多職種との報告、連絡、相談を徹底。  
・心身の状況、ご本人、ご家族の要望等を確認し現在有する機能に応じた適切なサービスを提供す  
る多職種連携は概ね行っている印象だが、コロナ禍であることや突発的な事象に関して、今後も状  
況に即した対応に取り組んでいく。
3. ・感染症の予防に努める  
・感染症予防に関しては、時期的な対策はもちろんの事、職員で新型コロナ感染発生があり、お客  
様での濃厚接触者が発生。感染拡大には至らなかったが、今後も感染予防・感染拡大防止に日  
頃より努めていく。
4. ・介護保険法及び関係各法令の遵守。  
・研修等々での介護保険・法令に関しての周知・遵守は進んできているが、更なる個々人の取り組み  
を行っていく。
5. ・年間稼働率 95%を目標に稼働率の向上と運営の安定を図る。  
・年間稼働率に関しては事業所としては達成したが、空床が続いた期間や特養空床利用もあった

為、今後も利用者退所後円滑に新規利用に至るよう日頃より各機関と連携していく。緊急利用等も柔軟に対応していく。

#### 6. ・防災対策の取り組み

・防災対策に関しては、委員会・防災訓練への参加で職員へ周知・徹底を図っている。日頃より発電機点検・備蓄保管状況の確認や、初動の確認を今一度行っていく。

#### 【総評】

新型コロナウイルスへの対応が続く1年であり、事業所としては職員の罹患はあったがお客様への感染には至らず、感染拡大に努めることができた。日頃からの手指消毒等予防策の継続及び更なる徹底を心掛けていく。併せて、お客様の受け入れ制限がかかる状況もあったが、年間稼働率は何とか達成することができた。しかしながら、退所後の空床が続いた期間も多く、特養入居者と合算しての目標稼働には至っておらず、今後も都度連携しながら円滑に運営が行えるよう努めていく。2件の看取り介護対応があり、ご本人・ご家族の意向に沿いながら対応ができた印象はあるが、今後も細やかな部分への配慮をしながら対応にあたっていきたい。

行事に関しては予定に沿っての実施困難な状況が多く、可能な範囲での実施となってしまった。今後も都度状況を見定めながら、臨機応変に取り組んでいく。

### ユニット型短期入所生活介護事業所 恵光園

#### 【活動方針】

1. ・職員は常に身だしなみに気を付け、適切な言葉遣いでの挨拶等接遇マナーに努める。
  - ・お客様個人としての尊厳に配慮し、適切な整容を行い、環境を整え快適な生活の場を提供出来るように努める。
  - ・ご家族へ近況伝達及び入退所時の状態確認や報告を随時適切に行う。
  - ・研修等を通して介護技術の向上を図りより良いケアが行えるようにする。
2. ・自宅及び利用中の生活状況等の情報は、迅速かつ正確に伝達。カンファレンスや必要時委員会等で検討・共有化し事故防止に努める。
  - ・体調不良等の緊急時の対応を迅速に行う(日頃の状態や意向等家族へ随時確認していく)。
  - ・苦情の解決や相談への対応を迅速・適切に行う(普段から家族とのかかわりを意識し、信頼して頂けるような関係性を構築していく)。
3. ・感染症対策の指針に基づき、手洗い・うがい励行、消毒の徹底、細菌・ウイルスを持ち込まない等、水際対策を強化し、発生を未然に予防すると共に迅速、かつ適切な細かい対策の取り組みを実施していく。

- ・職員が日常的に感染症の予防策に基づく知識と行動の普及に努める。
  - ・新型コロナウイルス感染症においても、お客様・職員及び近親者の体調等の把握及びウイルスに関するの情報収集や地域の状況を把握しながら予防強化に努める。
4. ・職員に対して研修、委員会、会議等で方針の徹底及び意識啓発、コンプライアンス上の周知徹底、法令遵守における問題点の抽出、チェック、評価等を行う。
  5. ・居宅介護支援事業所、地域包括支援センター及び地域連携室等に連絡し情報の共有に努め、調整を行う。恵光園特養相談員との連携も強化し、情報共有していく。
    - ・申込み者の見学・面接を行い早めに契約が出来るように調整を行う。
    - ・緊急ショートや空床利用等、柔軟に対応して利用者の要望に応じていく。
    - ・利用中のお客様が継続して利用して頂けるサービスの提供を行っていく。
  6. ・防災委員会を1ヶ月に1回・防災訓練を定期的実施し、有事の際に迅速に対応出来るよう職員全体で取り組んでいく。
    - ・発電機や備蓄品の保管及び職員への周知を徹底し、日頃より初動の確認を行っていく。
  7. ・ユニットケアに関する基本的な理解を職員に浸透させる
    - ・ユニットケアの理念に沿った施設としての理念を明確にし、職員の間で共有する。
    - ・理念に基づき、利用者の個性や生活を重視したケアを提供する

#### 【部署目標】

- 1.お客様及び御家族の満足度向上に努める
- 2.多職種との報告、連絡、相談を徹底し、心身の状況、ご本人、ご家族の要望等を確認し  
現在有する機能に応じた適切なサービスを提供する
- 3.感染症の予防に努める
- 4.介護保険法及び関係各法令の遵守。
- 5.年間稼働率 95%を目標に稼働率の向上と運営の安定を図る
- 6.防災対策の取り組み
- 7.ユニットケアの推進

#### 【執行報告】

- 稼働率 94.8%(延べ 3,458 人利用)
- 男女比(男性 26%:女性 74%)
- 平均介護度 3.2(男性 3.1・女性 3.3)
- 新規利用者数 男性 LS5 名/SS4 名・女性 LS10 名/SS4 名 合計 23 名

○照会及び利用件数(地域包括支援センター・居宅事業所・地域連携室等より)

照会 52件 利用 22件

○特養空床利用日数 144日/年間

#### 1.お客様及び御家族の満足度向上に努める

・お客様に対しての接遇はマニュアルに沿って対応し、環境整備・美化活動は今後も押し進めていく。面会一部制限継続中であり、今後も細やかな報告を行っていく。

#### 2.多職種との報告、連絡、相談を徹底し、心身の状況、ご本人、ご家族の要望等を確認し

現在有する機能に応じた適切なサービスを提供する

多職種連携は概ね行えている印象だが、コロナ禍であることや突発的な事象に関して、今後も状況に即した対応に取り組んでいく。

#### 3.感染症の予防に努める

感染症予防に関しては、時期的な対策はもちろんの事、職員で新型コロナ感染発生がありお客様での濃厚接触者が発生。

感染拡大には至らなかったが、今後も感染予防・感染拡大防止に日頃より努めていく。

#### 4.介護保険法及び関係各法令の遵守。

研修等々での介護保険・法令に関しての周知・遵守は進んできているが、更なる個々人の取り組みを行っていく。

#### 5.年間稼働率 95%を目標に稼働率の向上と運営の安定を図る

・年間稼働率に関しては事業所としては達成したが、空床が続いた期間や特養空床利用もあった為、今後も利用者退所後円滑に新規利用に至るよう日頃より各機関と連携していく。緊急利用等も柔軟に対応していく。

#### 6.防災対策の取り組み

・防災対策に関しては、委員会・防災訓練への参加で職員へ周知・徹底を図っている。

日頃より発電機点検・備蓄保管状況の確認や、初動の確認を今一度行っていく。

#### 7.ユニットケアの推進

・職員全体に基本的な理解は浸透してきている。在宅復帰を念頭に、生活背景を常に意識し、自宅からの生活スタイルの継続・個人を尊重したケアの継続に今後も努める。

## 【総評】

新型コロナウイルス感染症への対応が続く1年であったが、事業所としてはお客様・職員ともに感染には至らず努めることができた。日頃からの手指消毒等予防策の継続及び更なる徹底を心掛けていく。併せて、疥癬発生時期があり利用者の受け入れ制限がかかる状況もあり、特養空床利用で可能な限り受け入れ対応したが、年間稼働率は今一步達成には至らなかった。

退所後の空床が続いた期間も多く、特養入居者と合算しての目標稼働にも至っておらず、今後も都度連携しながら円滑に運営が行えるよう努めていく。2件の看取り介護対応があり、ご本人・ご家族の意向に沿いながら対応ができた印象はあるが、今後も細やかな部分への配慮をしながら対応にあたっていきたい。

行事に関しては予定に沿っての実施困難な状況が多く、可能な範囲での実施となってしまった。

今後も都度状況を見定めながら、臨機応変に取り組んでいく。

## 本館 海 ユニット

### 【ユニット目標】

- ・ユニット会議の質の向上
- ・年間の入院者数を減らす
- ・「ありがとう」と言ってもらえるサービスの提供

### 【総評】

ユニット会議の質の向上

- ・特定の利用者のカンファレンスは毎月開催しており、職員主体でのカンファレンスの開催数は増えた。一方で職員ごとのカンファレンスの開催数、参加数に差が出来てしまった。
- ・カンファレンスの際に事前に資料配布を行なって開催することが多く、当日参加出来ない職員の意見を反映させやすかったが、開催に時間を要するようになり課題が残った。内容によって方法を変え、素早く開催できるようにしていきたい。
- ・ケアに関するカンファレンスのみでなく、業務内容や職員の仕事上の悩みなどに関するカンファレンスを開催することができ、考え方や認識の差を埋めることが出来た。R4年度も様々な内容で定期的を開催していきたい。

年間の入院者数を減らす

- ・お客様のバイタルサインの確認や感染症対策などは細かく行うことができ、結果にも繋がった。
- ・交流面や信頼関係などから、医務室との情報共有が遅れてしまうことがあったが、年度内に改善傾向にあった。
- ・後から「こう思っていたのに。」「こうして欲しかったのに。」といった内容が、他部署とのやり取りで特に多かった。情報共有面での課題が残ったため、今後改善していく。

「ありがとう」と言ってもらえるサービスの提供

- ・日中のお客様の生活ペースを尊重したサービスに少しずつ近付けることが出来た。
- ・コロナ禍で何をしたらいいのか、職員間でも思い悩むことが多かったが、花火大会など、季節を感じられるレクを節目で開催することが出来た。
- ・それぞれの生きがいを感じられるような介護は今後も追及していく。

## 本館 大空 ユニット

### 【ユニット目標】

職員1人、1人が責任感を持ち考えて仕事をする

- ・当日リーダー制度の役割をきちんと理解し、当日勤務の職員の連携をスムーズに行う
- ・全職員にユニットでの役割分担を与え、それに対して自分に何が出来るのかを考えて仕事する。
- ・あの人がやってくれるだろう。と他人に任せる事なく自分からやります。という姿勢を持って勤務にあたる。
- ・記録・マニュアルの重要性を理解し、利用者様が安心・安全に過ごせる環境を作る。

### 【総評】

・ユニット内の役割を職員が把握し、それぞれの委員会や担当業務に責任を持って改善している部分が多く見えた。自分の担当業務以外でも積極的に意見を述べ、「自分がやります」という姿勢が見られる職員がいた。業務マニュアルを再作成し全職員、自分がいつ、何をやればいいのかを把握し業務、ケアを行い、その際に職員間で連携が取れていた。特に、ユニットでコロナのクラスターになった時に職員の連携と繋がりを感じた。一方で職員によっては、当日リーダーであっても自分で考える事なくユニットリーダーに相談してしまう職員が多かった。職員格差があり、自分の役割の業務に対して責任感がなく、他の職員がカバーする場面が多くあり、その都度指導したが、やってくれる職員に甘えてしまう事があった。今後は職員格差を解消し、職員のスキルアップを図っていきたい。

## 本館 そよ風 ユニット

### 【ユニット目標】

- ・ユニット会議の質の向上
- ・年間の入院者数を減らす
- ・「ありがとう」と言ってもらえるサービスの提供

### 【総評】

・各居室担当者で業務やケアについての気付きをカンファレンスに繋げていけるように働きかけを行ったが気付きが上がらず、リーダーが提案や情報の共有、意見を募ってのカンファレンスの開催等を行ったケースがあり、職員によって差が出る形となった。職員によって意識を持って取り組んでいる側面もあるため、今後も意識の向上と決定事項をユニット内で周知対応の統一に努める。

- ・コロナのクラスターによって感染症対応の経験が出来た。職員同士で協力して対応できたことで、意識・知識共に向上へと繋がったと感じる。
- ・居室内の清掃・理髪・爪切り等小まめに対応できた部分もあるが、お客様に寄り添いレクリエーションの充実を図れなかったため、今後の課題とする。

## 別館 ひまわり ユニット

### 【ユニット目標】

- ・利用者様への丁寧な声掛け、真摯な対応
- ・整理、整頓
- ・感染予防対策

### 【総評】

- ・前年度と比べ、要所要所で丁寧に声を掛ける事が出来ていた。しっかり話を聞き、ゆっくり話掛ける事も出来ていた。
- ・掃除や、居室清掃、荷物整理等々が行き届かなかった。手すり等に汚れが付いていても気が付かない、置きっぱなし等目立ったため、周りに目配りし必要な行動が取れるように今後も教育していく。
- ・感染症の観点から消毒、換気等職場に必要な対応は行えていたが、職員の体調不良の際、迅速な受診、受診結果の報告の遅延、すぐ治ったから受診に行かなかった等危機管理の認識不足が露呈したため、今後の課題として修正していく。

## 別館 こすもす ユニット

### 【ユニット目標】

- ・利用者様の生活の質の向上。
- ・ケアの質の向上。
- ・個々の役割を全うする。

### 【総評】

- ・コロナの影響で、非日常的の部分での楽しみや充実した日常を提供することが十分に出来なかった。とはいえ、その中でも工夫・努力をしていたセクションがあったので、こすもす自体の努力や意識が足りなかったと理解し反省している。但し、日常的なケアの部分は、今年度看取りを含め介助量が増えていた点も考慮すれば、皆必死に出来る事をやってくれていたと感じる。看取りや重度化が顕著にあったことで困難事例が多かった1年であったので、各職員のスキルや経験値は向上した。結局コロナの影響で職員のできる事も限られていた中で、お客様の生活の質の向上が実現できたとは言えない。
- ・ユニットメンバーの中に、各委員会の委員長や係の仕事等重要な役割を担っている者が複数おり、各自が役割をしっかり全うしていた。さらに、そのメンバーが抜けた後にフロア待機していた他の職員もしか

りとフォローし合えていた。評価できる働きを各自ができていた。

## 別館 なのはな ユニット

### 【ユニット目標】

- ・ユニット内の環境整備
- ・自立支援を考える
- ・チームミーティングの実行

### 【総評】

・お客様の生活環境として、居室内やユニット内の整理整頓、清掃等の不行き届きの場面が見受けられた。職員の意識改革が必須であり、単なる整理整頓・清掃ではなく清潔不潔の認識や生活環境への認識を変えていくことで、感染症対策にも繋がる有効な認識となるため、次年度の課題として今後も取り組んでいく。

・自立支援について、待てる介護が出来ない状況。不穏利用者対応・処置対応等で時間に追われた状況も多々あったため職員主体になってしまう場面もあった。また人員配置が変わる頻度が多い年だったこともあり、業務・ケアの周知徹底が行き届かなかった。自分たちが何をすべきか、何が支援なのか再度検討が必要と感じた。

・チームミーティングの実行については全く出来ず、チームとしては統一感無くバラバラな状態であったため、次年度改善の必須項目とする。

## 別館 さくら ユニット

### 【ユニット目標】

- ・入居者と職員の信頼関係作り・安全かつ生活しやすい環境作り(暮らしの継続を行う)
- ・服薬ミスを無いようにする
- ・職員の介護レベルの上達

### 【総評】

お客様が変わっても各職員コミュニケーションを取り、どのような対応や声掛けが適しているのかを情報共有しながら、信頼関係を築いていた。各職員の不適切な態度や声掛けは、お互いに注意しあいながら改善を行った。

・下剤の請求漏れや服薬残りが時々見られた。各業務帯の引き継ぎ時に確実に行えていないことや、何度行っても忘れてしまう職員もいたため、今後はチェックシート等でミスを防ぐ様に工夫していく。

・職員の知識・技術にばらつきがあるため、改めて職員教育を行い、お客様の入れ替わりに対してしっかり対応できるユニットを目指していきたい。

## 医務課

### 【部署目標】

- ・接遇意識の向上。お客様一人一人の生命と人格を尊重して対応する。(お客様は人生の先輩であることを念頭におき、敬意を持って接する)
- ・お客様の健康維持、増進に努める。(往診医や薬局と連携し、内服薬の適切な管理を行う)
- ・心の通った質の高い看護を目指す。(日々の健康状態・精神状態の観察を行い、状態変化時には早期に対応するとともに体調不良時の不安感を軽減できるように精神面にも寄り添って対応する)

### 【執行報告】

#### 処置関連

	褥瘡処置	軟膏処置	包帯交換	ハルーン管理	スタマ管理	経管栄養	BSチェック	インスリン注射
4月	53	1790	591	201	5	150	36	90
5月	62	1734	733	196	0	155	33	86
6月	102	1288	562	193	0	150	34	104
7月	125	1256	541	212	0	130	48	108
8月	120	2194	636	209	0	136	55	76
9月	105	3115	855	210	0	148	51	81
10月	140	3230	617	241	0	118	54	93
11月	167	2382	887	270	0	120	7	63
12月	191	3348	775	310	0	124	7	62
1月	155	3472	620	350	0	117	9	42
2月	128	2548	644	254	0	97	4	30
3月	169	2821	713	244	0	93	5	17
合計	1517	29178	8174	2890	5	1538	343	852

#### 回診・受診関連

	回診(人)	受診(千城台クリニック)	受診(他院)	救急搬送	入院
4月	158	8	11	0	1
5月	160	4	10	1	3
6月	157	4	15	4	5
7月	167	11	13	5	6
8月	129	9	16	2	3
9月	193	13	11	2	1
10月	112	10	10	2	3

11月	165	13	17	1	1
12月	204	14	15	0	2
1月	178	13	11	0	4
2月	156	8	10	9	7
3月	193	15	14	2	2
合計	1972	122	153	28	38

### 【総評】

・令和3年度は感染症「疥癬」「コロナ」の蔓延があり対応に苦慮した。「疥癬」については7月～9月にかけて疥癬対応を行い、10月以降も少人数の疥癬疑いの方がおり、対応が続いたが12月には終息した。疥癬の対応があったため、軟膏処置の対応人数が例年と比較して倍増した。年々入居者様の重度化も進んでおり、回診でのDrへの相談件数も前年の1.5倍となった。

・新型コロナについては、9月に職員が感染したが、入居者様には感染することなく終息した。2月には職員が感染し、その後入居者様へ感染が拡大。医務室職員も4名が感染し、残った職員で協力し日常業務と感染症対応を行った。疥癬対応と新型コロナ対応を含め感染症全般について、職員の知識、認識、手技等レベルアップが必要と考えられるため、感染症委員会、看護職員が中心となって感染症に対応できるように園内研修等の機会を通じて知識の向上を図っていく。

・職員の入退職については正職員の定着が進まず入れ替わりがあったが、医務室職員同士の協力や介護職員との協力に対応することができた。今後も医務室内看護職員間で連携を密に取って業務にあたり、他部署とも連携を取りながら、より良い看護ができるように対応していく。

## 栄養課

### 【部署目標】

- ① 食事サービスの充実
- ② 利用者様の栄養管理
- ③ 献立会議の内容の充実

### 【執行報告】

#### ・食事サービスの充実

毎月1回の選択食の聞き取りでいただいた、リクエストメニューや年に1回の嗜好調査の結果は献立に組み込み、出来るだけ、利用者様が食べたいものを提供するよう心掛けた。

行事食と御馳走の日は、毎月2回利用者様の好きな刺身、天ぷらを中心に季節の食材を入れ他にも、大人お子様ランチとして洋食メニューも提供し楽しんで頂いた。

季節のデザートも手作り(桜ロールケーキ、水無月風寒天、日の丸ゼリーなど)その行事の雰囲気を味わっていただけるよう工夫しました。今後も満足いただけるような食事内容を考えていきたい。

### ・栄養管理

栄養ケアマネジメントを行う時に必要なデータ(体重、食事摂取量、血液検査値など)を集めるのに皆さんに協力して頂きました。今後も介護員、医務、相談員と連携を図り、利用者様の状態を細かく把握できるよう動いていきたい。

### ・療養食の充実

糖尿病、心疾患、脂質異常症等の治療食の一層の充実の為、委託業者や介護現場の指導を強化。入居者様の病状の悪化、再発防止に繋げた。

## 【総評】

### ・栄養管理

80人分のスクリーニング、アセスメント、栄養ケア計画の作成に必死になってしまい思うような栄養管理が行えなかったように思う。自分の仕事の進め方を見直し、利用者様の栄養状態の把握が完全に行えるよう努力していきたい。

### ・献立会議

自分が行いたい事をまとめることができず、中途半端な会議の内容になってしまった。次年度に繋げていけるよう土台作りは行えたので、今後も職員に興味を持ってもらえるような会議にしていきたい。来年は入居者様の栄養管理を行う上で、職員の栄養知識向上が行えるよう会議の内容充実を図っていきたい。

### ・調理レクの企画や調整

料理レクを通じて、季節感や手作りの温かい料理を味わっていただきたかったのですが、企画を思うように進める事ができず、各部署、行えたところと出来なかった所の偏りが見られました。各部署で自発的にやりたいと思えるよう働きかけが足りなかったため、令和4年度は、入居者様に楽しんでいただけるような企画を考え、介護員と協力して作り上げていきたい。

## デイサービスセンター 恵光園

### 【基本方針】

社会福祉法人天光会が開設するデイサービスセンター恵光園が行う指定通所介護及び指定介護予防通所介護の事業の適正な運営を確保するために、人員及び管理運営に関する事を定め、要介護状態にある利用者が、居宅での自立した生活を送れるように、日常生活の世話、機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消、心身の機能の維持、利用者の家族の身体的・精神的負担の軽減を図ることを目的とする。

### 【部署目標】

1. 年間平均稼働率70%を目標とし、安定した収入を確保することが利用者及び職員の QOL 向上に繋がることを意識する。

→コロナの状況下で、目標稼働率を達成できたことは良かったが、サービスの質の向上は今度も努力と改善が必要と感じた。

2. ご利用者の安全に留意し、ご利用者、ご家族のご意向に基づき、在宅生活が継続出来るようサービスを提供する。

→ 利用者の体調管理や感染対策を行い、自宅への訪問時、園へ来園時、利用時と定期的に体温測定や手指消毒などを行い、ADL 状況の把握をしっかりと行い、その方に合ったサービス提供が出来るように、家族やケアマネと相談や情報共有を行った。

3. 和顔愛語(なごやかな表情と親愛の情がこもった言葉づかい、親しみやすく暖かい態度)の姿勢により、安心感・信頼感を持って頂けるサービスを提供する。

→ 職員全体で、あいさつや言葉づかいなど意識して行うことで、親しみや安心感を持ってサービスを提供できるように努めることができた。

4. 職員は、常に報告・連絡・相談・確認により職種間の連携を図り、専門的知識向上を目指し、効率的に事業を実践する。

→ 職員間で情報共有をしっかりと行い、他職種とも連携が取れたが時折、連絡ミスがあったので改善していけるように指導する。

#### 【 事業概況 】

○定員 1日25名

○営業日数 310日

○年間稼働率 79.0%

○年間延べ利用者数 6,123人

○平均介護度 1.2

	・営業日数	・稼働率平均	・利用延べ人数
H29	311日	63.6%(1.6%増)	4,946人 (122人増)
H30	310日	69.9%(6.3%増)	5,421人 (475人増)
R1	307日	70.1%(0.2%増)	5,377人 (44人減)
R2	307日	72.1%(2.0%増)	5,533人 (156人増)
R3	310日	79.0%(6.9%増)	6,123人 (590人増)

#### 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	26	26	26	27	26	26	26	26	27	24	23	27	310日
延べ人数	487	524	535	518	508	529	534	568	547	430	428	515	6123人
稼働率	74.9	80.6	82.3	76.7	78.2	81.4	82.2	87.4	81.0	71.7	74.4	76.3	79.0%

・新規契約数	・利用中止者数	・全体請求額		
H29 19人	12人	45,589,910円	差額	3,905,638増
H30 11人	8人	51,221,055円	差額	5,631,145増
R1 13人	13人	50,824,608円	差額	396,447減
R2 10人	15人	55,464,841円	差額	4,640,233増
R3 10人	13人	62,816,107円	差額	7,351,266増

### 【 行事実施状況 】

・新型コロナウイルス感染症の影響により、行事を行うことが難しい状況であったが、感染対策を行いながら、季節を感じて頂けるよう内容を変更して実施した。余暇時間に個々に合わせて、小規模でレクを積極的に行うことができた。また新しい取り組みとして、老社協が開催している Zoom による落語や講演をプロジェクトに写し観賞することができた。

・感染状況を確認しながら、今現在何が出来るか職員全体で模索しながら利用者に楽しみを提供できるよう今後も実施していく。

	年間行事	月間・週間行事
4月	お花見(園敷地内にて)	○クラブ活動
5月	母の日(カーネーション)・菖蒲湯(入浴) 鯉のぼり(敷地内に)	・将棋・囲碁・麻雀 ・カラオケ
6月	父の日(プレゼント)	・体操
7月	七夕まつり(短冊に願いを記入)	・書道・ペン習字
8月	夏祭り(盆踊り・ゲーム)	・彩色・工作
9月	敬老会(表彰・プレゼント)	・散歩
10月	運動会(小規模で開催)	・家事・手伝い
11月	映画鑑賞(プロジェクター投影)	・映画鑑賞・動画観賞
12月	クリスマス会(ハンドベル・プレゼント) 餅つき(おしるこ)	○ティーパーティー(月1回)
1月	正月あそび・恵光園神社(初詣)	○セレクトランチ(月1回)
2月	節分(鬼退治)	○誕生会(随時)
3月	ひなまつり(ひな人形展示)	○風呂の日(入浴剤)

### 【 勉強会・各委員会実施状況 】

・専門的な知識を深めるために月 1 回の勉強会を実施。また新人向けに研修を実施。

開催にあたり密にならない様に月3回開催や録画を行い感染対策を講じた。

・各委員会に職員の担当分を行い、開催時に参加した。

開催月	研修内容	委員会

4月	認知症	生活向上委員会(月1回開催)
5月	トランス・ポジショニング	労働衛生委員会(月1回開催)
6月	感染症・褥瘡	感染症・褥瘡委員会(月1回開催)
7月	事故防止	事故防止委員会(月1回開催)
8月	身体拘束・虐待防止	身体拘束・虐待防止委員会(月1回開催)
9月	防災	防災委員会(月1回開催)
10月	吸引、酸素、救急法	医務室
11月	感染症(インフルエンザ、ノロ、食中毒)	感染症・褥瘡委員会、栄養課
12月	事故防止	事故防止委員会(月1回開催)
1月	身体拘束・虐待防止	身体拘束・虐待防止委員会(月1回開催)
2月	ターミナルケア	生活向上委員会(月1回開催)
3月	職業倫理	労働衛生委員会(月1回開催)

#### 【 総評 】

・今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの事業運営を継続しなければならず、感染リスクにより容易に受け入れができない状況や円滑な運営ができないこと、顧客満足度の維持が課題となる年であった。しかし、感染症流行から時間が経ち、職員の適切な感染対策の実施や、利用者様・ご家族様にも感染対策への理解を得ることが出来た為、感染症が発生することなく、また、職員・利用者共に濃厚接触者に該当する事もなく営業を継続することが出来た。通常通りの営業を継続できた事が稼働率等の年度目標の達成にもつながった。

次年度も感染対策を行いながらも、お客様一人一人に満足して頂けるようなサービス提供が出来る様、試行錯誤していきたい。

### 居宅介護支援事業所 恵光園

#### 【活動方針】

要介護状態になった場合において、利用者が可能な限り住みなれた自宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を送れるよう支援していく。「高齢者の自己決定権の尊厳」、「自分らしい生活の維持」、「自立支援」を基本に、常に利用者の意向に踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成し、そのプランに従ってサービスが提供されるよう各事業所との連絡調整を密にして、在宅生活が継続できるよう支援を行って行く。

1. ご利用者とそのご家族の方とのコミュニケーションを重視し、おかれている立場の把握や内外的な要因を取り除いていくことにより信頼関係を得られるよう努力する。

2. 一方的にご利用者様を分析する事なく、ご利用者様と共同作業でアセスメントを行うことで、ご利用者様及び家族の方の抱える課題や問題を正確に捉え、把握する事に努める。

3. ご利用者様の暮らしを理解し、その人らしい自律した生活が出来るよう、必要とされる社会資源の活用、介護保険制度、サービス提供などの情報を適切に説明し、希望を持てるプランを作成する事でご利用者様の生活の質の向上をめざしていく。
4. 毎月、正確な身体の状態や生活環境等を把握し、新たなニーズが発生していないか目標設定を確認し、サービスが的確に行えているか等評価し、定期のモニタリングを行い記録していく。新たなニーズが発生した際には、ケアプランを修正する事によりご利用者様の生活のニーズの充足につながるよう、プランの内容、質を以前よりさらによりものにしていく。
5. 常にご利用者様の立場に立ち、何が今必要とされているかを一緒に考え、対応していくことに努め、ご利用者様に提供されるサービスが特定の事業所に不当に偏る事がないよう公正・中立に行う。
6. 事業の運営にあたっては、市町村、あんしんケアセンター、医療機関、他の指定居宅介護支援事業者、各サービス事業所、介護保険施設等との連携に努める。

#### 【部署目標】

1. 介護支援専門員の資質・専門性の向上
  - ・各種研修会に参加し、専門技術、知識の学習に努める。
  - ・個人情報取り扱いを適正に行うために言動や行動に注意し秘密保持の厳守に努める。
  - ・基礎の振り返りから、困難事例への対応等実務において発揮できるよう力を身につけて行く。
  - ・自己評価の基準をつくり、定期的に自己点検しながら常に向上心をもって取り組んでいく。
2. 困難ケースに対してあんしんケアセンターに相談等を行い、課題解決に努めていく。
3. 月に1回以上業務会議を行い、居宅支援についての業務、サービスの質を検討して各々のサービス内容と居宅全体の業務の反省・見直しの機会を設け、書類等の不備がないかなど確認作業をすると共に記録に残していく。
4. 良質なサービス調整を継続するために心身共に健康管理に努めて、明るい職場づくりを心掛ける。
5. 居宅全体の利用者契約件数117件(要支援者含)を目標に、積極的に新規利用者を受け入れていく。(R3.年1月現在 山崎36.5件・葛岡32件・板倉15件 計83.5件 要支援者含)その為あんしんケアセンターとの連携を大事にしていく。
6. 保険者から要介護認定調査の委託を受けた場合は、その知識を有するよう常に研鑽に努め、被保険者に公正、中立に対応し正しい調査を行う。
7. 職員それぞれの利用者の情報交換・課題の共有・相談がよりスムーズになるよう職員間の連携強化を図っていく。
8. 特定の事業所の利用率が80%未満になるよう公正・中立な立場で努めていく。
9. 利用者の入退院時際には、早急に情報提供をおこない医療機関やサービス事業所と連携を図り

在宅生活がスムーズにできるよう支援していく。

10. 災害時、感染症対策時等の対応として、緊急時対策連絡表を作成し災害時、感染症対策時等には利用者の安否確認が速やかにいくよう、家族、地域自治会、行政、サービス事業所等と連絡、連携が取れるよう体制を整えていく。

11. 在宅生活での困りごとの相談窓口として、介護相談室を設置し地域に密着した介護の専門家として介護に関するご相談から手続き、調整などのサポートを行う。

## 【執行報告】

請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
山崎	24	27	21	27	22	20	20	19	21	20	18	18	257
葛岡	28	27	27	26	25	25	22	22	20	22	23	27	294
板倉	13	16	20	23	21	27	26	33	33	33	33	33	311
介護件数	65	70	68	76	68	72	68	74	74	75	74	78	862
山崎	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	10	99
葛岡	11	10	10	10	10	10	9	9	8	7	8	7	109
板倉	0	0	0	1	1	1	2	3	4	5	5	5	27
予防合計	19	18	18	19	19	19	19	20	20	20	22	22	235
予防件数	9.5	9	9	9.5	9.5	9.5	9.5	9.5	10	10	11	11	117.5
介護予防合計	74	79	77	85	77	81	77	84	84	85	85	89	979.5
稼働率(%)	63.0	67.5	65.8	72.6	65.8	69.2	61.3	71.7	71.7	72.6	72.6	76.0	69.7
認定調査外部 (4752円/件)	3	2	2	1	0	1	2	1	3	0	0	0	15

## 外部研修

開催日	研修主催	内容
7月13日	千葉市介護支援専門員協会	褥瘡(退院後在宅支援の連携)
7月30日	千葉市あんしんケアセンター桜木	若葉区多職種連携会議 (入退院支援センターの取り組み)
8月27日	千葉市地域包括ケア推進課	地域における高齢者のフレイル予防
9月17日	千葉市あんしんケアセンター都賀	令和3年度介護報酬改定の具体的対応
3月25日	千葉市あんしんケアセンター大宮台	地域の社会資源について

## 【総評】

・年間の請求件数トータル数としては、要介護が昨年度 804 件、今年度 862 件。58 件の増となっている。要支援は昨年度 106.5 件、今年度 117.5 件で要介護、要支援の合計としては、昨年度は 911 件、今年度 979.5 件と 68.5 件の増となったが目標の数までには達することが出来なかった。

・千葉市あんしんケアセンターや病院、他事業所からの依頼は増えているが、終了になった件数が昨年

度は19件、今年度28件と多くなり、目標達成に至らなかった  
引き続き千葉市あんしんケアセンター等にこまめに訪問し繋がりをもち件数を増やせるようにしていきたい。

・特定事業所集中減算は、1年通して減算はなかった為書類を作成し保管している。

・研修については、コロナウイルス感染予防の為開催する件数が少なく、全てズームでの開催となり、今後はそのような開催が増えてくると思われるが積極的に参加できるようにしたい。

## ケアハウス恵光園

### 【活動方針】

ケアハウスが居住であることを踏まえつつ、高齢者の特性に配慮した住み良い居住を提供し入居者の自主性の尊重を基本とし、入居者が明るく、心豊かに生活できるよう配慮していくものである。

### 【部署目標】

・入居者の生活の場として安心して過ごせる環境作りを目指し、ニーズに対し速やかに対応していく。又、家族や地域との交流がコロナ禍で出来ない為交流が途絶えないようにする。

### 【執行報告】

各月1日の人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男	8	8	8	8	8	8
女	7	7	7	7	7	7
退居	0	0	0	0	0	0
入居	0	0	0	0	0	0
合計	15	15	15	15	15	15

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	8	8	8	8	8	8
女	7	7	7	7	7	7
退居	2	0	0	0	0	0
入居	2	0	0	0	0	0
合計	15	15	15	15	15	15

入・退居者

退居 305号 4/3 315号 9/23 316号 10/1

入居 305号 4/5 315号 10/1 316号 10/7

入院者

男性 千葉中央メディカルセンター 胆石 6/30～7/7 9/1～9/3

男性 最成病院 骨折 7/28～9/21

女性 徳洲会病院 肺炎 9/15～9/19

サービス利用状況

R3.4/1 現在

介護度	人数	介護保険				介護保 険外	障害福祉サービス	
		恵光園 デイ	外部 デイ	生活支援 ヘルパー	身体介助		通所サ ービス	移動支援 24時間
1	5	5	2	5			2	1
2	2		1	2		1		
3	2	1		1	1			
4	2	2						
自立者	4							
合計	15	8	3	8	1	1	2	1

訪問歯科 男性2名 女性4名

訪問リハ・マッサージ 男性1名 女性1名

R4.3/31 現在

介護度	人数	介護保険				介護保 険外	障害福祉サービス	
		恵光園 デイ	外部 デイ	生活支援 ヘルパー	身体介助		通所サ ービス	移動支援 24時間
1	5	5		4			2	1
2	3	2	1	2		1		
3	1	1		1	1			
4	2	2		2				
自立者	4							
合計	15	10	1	9	1	1	2	1

訪問歯科 男性2名 女性4名

訪問リハ・マッサージ 男性1名 女性2名

・消防訓練の実施

日中・夜間想定の防災訓練・避難訓練を行った。

令和3年度に新しい入居者が3名いた為、避難経路と必要な防災グッズが何か伝えた。

・健康管理

朝夕の検温、マスクの着用、体調不良の有無の確認を毎日行った。

定期的に病院に付き添い(家族が付き添えない入居者)理解しにくい医師からの指示を聞き入居者に分かりやすく伝えた。又、家族に些細な変化も随時伝えた。

年に1度の健康診断を勧め、病院受診するように努めた。

・懇談会

月1度の懇談会で入居者の不満や改善してほしいところなどを書式で施設長に報告した。

・苦情への取り組み

苦情とならないうちに入居者に耳を傾け、意見を言いやすい環境作りをし、不満が大きくなる前に処理した。

・環境整備/設備整備

共有部分の整備に努めた。

手芸クラブで作品を飾り、入居者の意欲を高めるようにした。

園芸クラブで作物を作り、料理クラブでそれらを調理した。

・個人情報保護

法令・規範を厳守。個人情報の保護に努めた。

**【総評】**

職員の異動があり、職員の連携や入居者の信頼関係が安定しなかった。

職員の体調不良により入居者の状況把握が疎かになっていた。

入居者アンケートが取れず、次回実施する。

カーテン等大きな物の洗濯や掃除が出来なかった。

コロナ感染症予防で仕方ないと、理由付けで外出レクやイベントをしなかった。

※中庭や玄関には出られた為、そこでレクなど出来たと思う。

1人勤務が多かった為、業務優先なところが出てしまっていた。